

難渋する痛みで効果を上げている 「INDIBA® FASCIA」も積極活用 おかのクリニック（東京都足立区）



岡野 隆利院長

三代60年以上同地に医院をかまえ、ペインクリニックとしては11年目。単に痛みを取るだけでなく、QOL(生活の質)向上につながるものを探す中で「インディバ®・アクティブ」と出会う。現在は新製品の「INDIBA® FASCIA」も導入し、診療の中での役割も大きくなってきています。

——「インディバ®・アクティブ」(以下「アクティブ」)の施術は、ご自身で行っていただけるのですか。

岡野 わたしと家内(医師)です。施術していて楽しい部分もありますので、二人とも気に入っています(笑)。講習もなるべく参加させてもらっています。 ※岡野院長は福岡での「アクティブ」セミナーにもご参加。

当院はペインクリニックという痛みを専門にしているクリニックですが、全患者さんの20~30%ほどに「アクティブ」を使用しています。導入当初から、これまでの神経ブロックという、注射のみを柱にした治療とは経緯が異なる感触を得ています。例えば拘縮肩ではこれまで、「痛みは治まっても動きは変わらない」という状況から治癒に向かっていたのが、「痛みは残るけど動くようになった」から治癒へ向かう症例が見られるようになりました。肩峰下滑液包や関節包の癒着にも作用しているのだらうと思われます。また骨移植や人工股関節、開腹術後など術後癒着が原因と思われる痛みの患者さんでは、「何の治療法もないです」と見放されていたものが、数回の治療で改善傾向があるので、感謝されています。

——帯状疱疹でも活用されているとか。

岡野 ええ。帯状疱疹後の神経痛ですね。最近では、早期から痛みの治療をすることもあるので、帯状疱疹関連痛とも呼んでいます。これは治療が難儀することも多い疾患なのですが、継続的に「アクティブ」の施術を行うことで、侵襲の高いブロックの注射をしなくても効果が見込める場合があります。特にご高齢になると痛みも皮膚の状態も治りが遅くなりがちなのですが、「アクティブ」をかけていると皮膚もキレイになって、症状が出ていない部位まで頼まれることもありますよ(笑)。

従来治療との親和性も高い

——院のホームページでは「アクティブ」について触れていませんね。

岡野 ペインクリニックなので、「アクティブ」を受けることを前提で来院されるのもどうかと思い…。もちろん一般的な痛みでも使用しますが、施術するかどうかの判断はあくまで適応を確認してからです。痛みをとるだけでなく、生活を向上させられるペインクリニックづくりを考えていた時に、つくばで開催された臨床スポーツ医学会学術集会(2010年)に出席し、そこで見つけたのが「アクティブ」。保険医療の中で行っているのでも、7分で施術をおさめるようにしていますが、一対一で患者さんとコミュニケーションをとる貴重な時間でもあります。

——「INDIBA® FASCIA」も活用していただいているようで。

岡野 ペインクリニックでの導入は、わたしどもが最初かもしれませんがね。「アクティブ」も特に癒着が原因と思われる症状に効果が高いので、よりFasciaを対象とした「INDIBA® FASCIA」にも注目していますし、神経ブロックや超音波ガイド下Fasciaなど、我々の従来行っていた治療と親和性も高いと考えております。今後は、

「アクティブ」とともに診療システムにどう組み合わせていくか、考えるのも楽しみです。また、わたし自身が現在、格闘技のリングドクターをさせていただいていることもあり、選手のサポートにも「アクティブ」や「INDIBA® FASCIA」を活用したいと考えています。



近隣のみならず遠方からも患者さんが訪れます



選手のダウン後
駆けつける岡野院長

【施設プロフィール】

施設名:おかのクリニック
住所:〒123-0841 東京都足立区西新井1-11-4
電話番号:03-3898-4983
HPアドレス:<http://www.okanoclinic.com/>
オープン年月:2008年1月
代表者名:岡野 隆利
スタッフ数:9名
店舗面積:80㎡